

福部中だより

平成 27 年度 第 3 号

平成 27 年 6 月 9 日発行

鳥取市立福部中学校

鳥取市福部町高江 485-3

<http://www.torikyoe.ed.jp/fukube-j/>

一念 道を拓く

6月を迎え、入梅の便りが各地から届いています。一雨毎に人里に群生する草花が命を吹き込まれたかのようにグングンと勢いを増して成長しています。まさに「草魂」です。

この言葉を座右の銘にし、通算勝利数 317 勝(日本プロ野球界歴代第 4 位)を積み上げた鈴木啓示投手がいました。現在は消滅した近鉄バファローズを弱小時代から支え続け、リーグ優勝まで導いた近鉄生え抜きの選手でした。逞しい反面、自他に対し妥協を許さない性格が災いし、近鉄監督時代は結果を残せないままに辞任してしまいましたが、自分の非をきちんと認める清く正しい人でもありました。自らの一念を貫きとおした選手であり、監督であり私の大好きな野球人でした。

「一念を以て道を拓く」、言葉で言ってしまうと簡単ですが、それを自らが地でいくならば、相当の覚悟が必要となります。

今年のNHK大河ドラマは「花燃ゆ」です。毎週楽しみに観ている方もあると思います。ドラマの中に映し出されていますが、松下村塾には個性豊かないろいろな人が学んでいました。

その中の一人に、天野清三郎という勉強嫌いで、将来見込みのないと思われる弟子がいました。松陰先生は天野の将来を心配し、高杉晋作に命じて行動を共にさせましたが、天野は政治運動には向かないことを身をもって知ります。

打ちひしがれていた時、松陰先生の言葉が天野の心に蘇ってきました。「お前たちの中で黒船を造る者はおらんか。あれを造らなければ日本は植民地にされてしまう」

「そうだ、わしは勉強嫌いだけれど、手先の仕事は好きだ。舟大工になって黒船を造ろう」と天野は決意し、脱藩して上海に、そして上海からロンドンに渡り、造船所で働きながら船造りを学ぶこととなりました。勉強が嫌だから船造りになろうと思ったのに、勉強をしなければならぬ。異国の地で、高等な学問を英語で勉強するのですから、血を吐く思いだったに違いありません。でも船造りを覚えないと日本には帰れない、自分の生きる道がないからです。まさに一念を以て道を拓く覚悟です。

その後、天野はアメリカへ渡って、ボストンの造船所でまた働きながら学び続け、造船学をマスターし、明治 7 年、日本に帰ってきました。そして、かつての松下村塾の仲間と再会し、その紹介で明治政府が長崎に造った長崎造船所の所長となり、世界に冠たる日本の造船業界草分けの第一人者になりました。

波乱万丈、しかし自分は何のために生きるかを真剣に考えた一念に生きた人生だったとも言えます。

今、福部幼小中一貫校づくりが着々と進められています。その一人として、保護者の皆様、地域の方々と共に一念を以て学校づくりに精一杯頑張る所存です。

中学校長 木村 正人



雑感

頭に残っていることがある。先日見た「一貫校に期待すること」の各家庭からの回答で「高校に行ってからギャップをなくしてほしい」「学力向上」等の言葉である。

もう少し詳しく聞きたい気もするが、思うことは、根本は一緒ではないかということ。生徒たちを見ていて感じることもある。学力の向上と言いながら、実は意外なところで力が出し切れていないのではないかということである。一例を挙げれば受験勉強と言えど生徒たちは難しい問題に取り組むことのように考えてはいないか。そう考えることももちろん大切だが、生徒たちの物の扱い方、話の聞き方などの日常生活そのものが実は「知識を増やす」場であったり、「わかる」場であったりと、学力と強く結びついている。例えば、ケアレスミスをしないうるまじさは、日常生活で脱いだ靴を揃えたり、後ろを向いて戸を閉めたりなど『振り返る』習慣化で養われはしないか。また、授業の準備を確実にする、集合時刻にゆとりをもって行くために何時に寝て、起きて、家を出たらいいかを考え行動することなどは、『確認する』習慣化につながるだろう。理屈ではない、どうしてするのかなど、理由はいらぬものなのではないかと思う。

自動ドアが普及して前しか見えない、見なくても戸は必ず閉まる。そんな便利なものが増えている。それに伴って「心を使う」機会が少なくなっているのか。このような今を生徒たちは生きている。これから更に便利な物が溢れる時代となる。目に見える効果をすぐに求めるよりも成長段階で必ず身につけていかなければならないものがある。周りの大人がわずかなこの機会を逃してはいけない。

素直な人は伸びる。周りの人に可愛がられ、いろいろなことを教わり、それを吸収して行くから、また教えてもらえる。そんな人とのやりとりで、ますます学力や人間性を成長させているのかもしれない。

中学 3 年生は、その地域の教育の集大成の姿だと言った人がいた。

福部中学校の卒業生は社会でどんな姿に見られているのだろう。

教諭 安宅 律子

1 年 宿 泊 研 修

(氷ノ山登頂・飯盒炊さん他)

5月20日・21日の2日間、若桜町の氷太くんで1年生25名が宿泊研修を実施しました。好天に恵まれ、氷ノ山にも無事登頂できました。生徒目標「進んでいく子SDK」のもと、仲間づくり研修などに取り組み、友達の良さも発見できた研修でした。



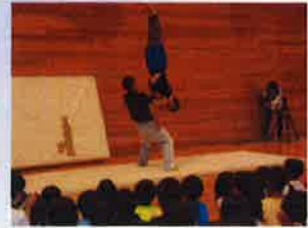
俳句で振り返ってみます。

- 肩組んで 若葉に歌う わが校歌 (鶴木麻央)
- 山登り 励まし合って 進む道 (中瀬優衣)
- そよぐ風 若葉がゆれる 氷ノ山 (飼牛真央)
- 新緑の すき間をぬける 光たち (中川蔵人)
- 新緑も 川も輝く 氷ノ山 (吉田英祐)

本物に学ぶ講座

6月1日、テレビでも紹介された『シルクド・ソレイユ』のコレオグラファーで活躍されている奥澤秀人さんをお招きし、幼小中の園児・児童・生徒でパフォーマンスを見たり、お話(小学校高学年以上)を聞いたりしました。生徒の感想です。

「あきらめずに体操を続けていることを聞き、自分もあきらめず



に最後まで頑張ろうと思った」(1年女子)「奥澤さんの体験から、つねに努力をしていれば、努力は裏切らないということ学びました。僕も、努力を惜しまない人になりたいです」(2年男子)

福部中として最後の東部総体 テニス部 見事 優勝!!

～野球部・バドミントン部も健闘～

6月4日、5日に東部地区総合体育館が実施されました。ソフトテニス部が団体で見事優勝しました。以下は結果です。



☆ソフトテニス部

団体 優勝

個人 森本・濱岡ペア 3位 中川・山本ペア ベスト16

☆野球部 対 鳥取南中 惜敗

☆バドミントン部 団体 予選リーグ 1勝2敗

個人 村上・佐藤ペア 第5位



8	月	学校公開週間(～12)	22	月	
9	火		23	火	2年職場体験
10	水	校内マラソン	24	水	2年職場体験
11	木	避難訓練	25	木	2年職場体験
12	金	1年勤労体験(らっきょう加工センター)	26	金	
13	土		27	土	
14	日		28	日	
15	月	中間テスト発表・部活停止	29	月	
16	火	東部陸上	30	火	2年らっきょう収穫(農業体験)
17	水		7/1	水	2年らっきょう酔づけ
18	木	東部陸上予備日	2	木	個別相談
19	金	校内マラソン予備日	3	金	個別相談・東部水泳
20	土		4	土	通信陸上
21	日		5	日	通信陸上